

平成27年7月31日
国土交通省九州地方整備局
筑後川河川事務所

記者発表資料

平成26年 筑後川・矢部川・嘉瀬川の水質について

■ 筑後川・矢部川・嘉瀬川とも良好な水質を維持しています。

- ・筑後川・嘉瀬川では平成25年に引き続き、全地点で環境基準を満足し、良好な状態を維持しています。
- ・矢部川でも全地点で環境基準を満足しました。
(平成25年は5地点中4地点で環境基準を満足)

■ 新しい水質指標となる住民との協働調査も継続的に実施しました。

【記者発表先】 久留米市・佐賀県・日田市・大牟田市・柳川市・八女市の各記者クラブ

※なお、九州地方整備局においても九州全体の一級河川の水質現況について記者発表をしています。 (<http://www.qsr.mlit.go.jp>)

<問い合わせ先>

国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川事務所

河川環境課長 中島 忠

TEL : 0942-33-9131 (代表)

FAX : 0942-35-0229 (河川環境課)

ホームページアドレス : <http://www.qsr.mlit.go.jp/chikugo/>

平成26年 筑後川・矢部川・嘉瀬川水系の水質現況

筑後川河川事務所では筑後川・矢部川・嘉瀬川について、大分・福岡・佐賀県と協議した測定計画に基づき、水質管理のため定期的に水質測定を実施しています。

平成26年1月～12月の一級河川筑後川水系、矢部川水系及び嘉瀬川水系の直轄管理区間（国の管理する区間）における水質現況は、以下のとおりです。

1. BOD75%値からみた水質の評価

【調査結果】

- ・筑後川水系 : 全14地点において環境基準値を満足しました。
- ・矢部川水系 : 全5地点において環境基準値を満足しました。
- ・嘉瀬川水系 : 全4地点において環境基準値を満足しました。

※各地点の環境基準の達成状況は表-1を参照ください。

■□用語の説明■□

●BOD（生物化学的酸素要求量）とは

水中の汚濁物質（主に有機物）が微生物により酸化分解されるときに必要なとされる酸素量。環境基準では河川の汚濁指標として用いられている。

●BOD75%値とは

BODにおける環境基準の達成状況は、公共用水域が通常の状態（低水流量以上の流量）にあるときの測定値によって判断することとなっている。しかし、低水流量の把握は困難であるため、測定された年間データのうち75%以上のデータが基準値を達成することをもって評価することとされている。たとえば、月1回の測定の場合、データを水質のよいものから12個並べ9番目が75%値となる。**この値と環境基準値を比較して、環境基準の達成状況を判断**する。

表-1 BOD75%値の環境基準の達成状況

筑後川

河川名	観測地点名	環境基準地点	河川類型	BOD環境基準値(mg/l)	平成26年		平成25年
					BOD75%値	満足状況	
筑後川	杖立	○	AA	1.0	0.7	○	0.6
	柚木		A	2.0	0.7	○	0.9
	大山水辺プラザ		A	2.0	0.8	○	1.0
	大宮橋		A	2.0	0.6	○	0.8
	三隈大橋	○	A	2.0	0.6	○	0.9
	島内堰		A	2.0	0.6	○	0.8
	川下		A	2.0	0.7	○	0.9
	荒瀬		A	2.0	0.7	○	1.0
	片ノ瀬		A	2.0	0.8	○	1.1
	神代橋		A	2.0	0.7	○	1.1
	瀬ノ下	○	A	2.0	1.2	○	2.0
	六五郎橋	○	B	3.0	1.2	○	1.9
玖珠川	小ヶ瀬		A	2.0	0.6	○	0.7
宝満川	酒井東橋	○	B	3.0	1.1	○	1.6

矢部川

河川名	観測地点名	環境基準地点	河川類型	BOD環境基準値(mg/l)	平成26年		平成25年
					BOD75%値	満足状況	
矢部川	船小屋	○	A	2.0	0.7	○	1.1
	瀬高		A	2.0	1.1	○	2.8
	浦島橋	○	B	3.0	1.5	○	1.3
飯江川	古賀橋	○	A	2.0	1.7	○	1.8
	丁字橋	○	C	5.0	2.1	○	2.0

嘉瀬川

河川名	観測地点名	環境基準地点	河川類型	BOD環境基準値(mg/l)	平成26年		平成25年
					BOD75%値	満足状況	
嘉瀬川	官人橋	○	A	2.0	1.2	○	1.3
	石井樋		A	2.0	1.0	○	1.1
	嘉瀬橋		A	2.0	1.0	○	1.7
	久保田橋	○	D	8.0	1.3	○	2.1

※環境基準値を満足していない箇所について黄色で着色している。

2. 水生生物から見た水質の評価

- ・河川の水質保全の必要性や河川愛護の重要性を認識してもらうため、昭和59年度から小中学生などの参加を得て水生生物調査による水質判定を行っています。
- ・平成26年は筑後川、矢部川あわせて、**のべ441人の参加で調査を実施しました。**

【調査結果】

全11地点中（筑後川水系6地点・矢部川水系5地点）

I. きれいな水 7地点（筑後川3地点・矢部川4地点）

II. ややきれいな水 4地点（筑後川3地点・矢部川1地点）

と判定されました。

※「III. きたない水」及び「IV. とてもきたない水」は該当箇所なし。

■□用語の説明■□

●水生生物調査とは

川の中に生息する生物を採取して、簡易的に水質を調べる方法。

採取した生物の種類・数により、「I. きれいな水」「II. ややきれいな水」

「III. きたない水」「IV. とてもきたない水」の4段階の水質階級に分類する。



水生生物調査の様子

3. 新しい水質指標による水質の評価(住民との協働調査)

- ・従来、水質はBODにより評価してきましたが、平成17年度より「人と河川との豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」「利用しやすい水質の確保」といった、**住民の視点に立った新しい水質指標による評価を実施**しています。
- ・実施にあたっては、**住民と河川管理者の協働で河川水質の評価を行っています。**

調査地点

「①人と河川の豊かなふれあいの確保」「②豊かな生態系の確保」については、以下3地点

筑後川：大山水辺プラザ（日田市）、台霧の瀬（日田市）

矢部川：船小屋（筑後市、みやま市）

「③利用しやすい水質の確保」については、以下4地点

筑後川：三隈大橋（日田市）、島内堰（日田市）、瀬ノ下（久留米市）

嘉瀬川：嘉瀬橋（佐賀市）

①人と河川の豊かなふれあいの確保

【調査結果】

- ・ 筑後川大山水辺プラザ地点、筑後川台霧の瀬地点は「B：川の中に入って遊びやすい（2番目のランク）」という評価でした。
- ・ 矢部川船小屋地点は「C：川の中に入れないが、川に近づくことができる（下から2番目のランク）」という評価でした。

■□用語の説明■□

●人と河川の豊かなふれあいの確保とは

- ・川への近づきやすさの目安となる「ゴミの量」「透視度」「川底の感触」「水のにおい」「糞便性大腸菌群数」の5つの評価項目についてA～Dの4ランクで評価し、最も低く判定された項目のランクをその地点の評価とする。
- ・なお、本調査の評価項目である「ゴミの量」「川底の感触」「水のにおい」は、測定者の感じ方によって測定結果が異なることがある。

ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル ^{※1)}				
			ゴミの量	透視度 (cm)	川底の感触 ^{※3)}	水におい	糞便性大腸菌群数 (個/100mL)
A	顔を川の水につけやすい		川の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ゴミはあるが全く気にならない	100以上 ^{※2)}	不快感がない	不快でない	100以下
B	川の中に入って遊びやすい		川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	70以上	ところどころヌルヌルしているが、不快でない	不快でない	1000以下
C	川の中には入れないが、川に近づくことができる		川の中や水際にゴミがあつて不快である	30以上	ヌルヌルしており不快である	水に鼻を近づけて不快な臭いを感じる 風下の水際に立つと不快な臭いを感じる	1000を超えるもの
D	川の水に魅力がなく、川に近づきにくい		川の中や水際にゴミがあつてとても不快である	30未満		風下の水際に立つと、とても不快な臭いを感じる	

②豊かな生態系の確保

【調査結果】

- ・ 筑後川大山水辺プラザ地点、矢部川船小屋地点は「A：非常に良好（1番上のランク）」という評価でした。
- ・ 筑後川台霧の瀬地点は「B：良好（2番目のランク）」という評価でした。

■ □用語の説明 ■ □

● 豊かな生態系の確保とは

- ・ 生物の生息・生育・繁殖環境として好ましいかを「溶存酸素 (DO)」「アンモニウム態窒素 (NH₄-N)」「水生生物調査」の3項目についてA～Dの4ランクで評価する。

ランク	説明	水質管理指標		
		DO (mg/L)	NH ₄ -N (mg/L)	水生生物の生息
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2以下	I. きれいな水 ・カワゲラ ・ナガレトビケラ等
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上	0.5以下	II. ややきれいな水 ・コガタシマトビケラ ・オオシマトビケラ等
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3以上	2.0以下	III. きたない水 ・ミズムシ ・ミズカマキリ等
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2.0を超えるもの	IV. とてもきたない水 ・セスジユスリカ ・チョウバエ等

③利用しやすい水質の確保

【調査結果】

- ・ 筑後川三隈大橋地点、島内堰地点及び嘉瀬川嘉瀬橋地点は「A：より利用しやすい（1番上のランク）」という評価でした。
- ・ 筑後川瀬ノ下地点は「B：利用しやすい（2番目のランク）」という評価でした。

■□用語の説明■□

●利用しやすい水質の確保とは

- ・ 水道用水への利用（安全性、臭い、維持管理のしやすさ）の目安となる「トリハロメタン生成能」「2-メチルイソボルネオール（2-MIB）」「ジオスミン」「アンモニウム態窒素（ $\text{NH}_4\text{-N}$ ）」の4つの評価項目についてA～Cの3ランクで評価し、最も低く判定された項目のランクをその地点の評価とする。

ランク	説明	評価項目と評価レベル			
		安全性	快適性		維持管理性
		トリハロメタン生成能 ($\mu\text{g/L}$)	2-MIB (ng/L)	ジオスミン (ng/L)	$\text{NH}_4\text{-N}$ (mg/L)
A	より利用しやすい	100以下	5以下	10以下	0.1以下
B	利用しやすい		20以下	20以下	0.3以下
C	利用するためには高度な処理が必要	100を超えるもの	20を超えるもの	20を超えるもの	0.3を超えるもの

4. 水質事故

- ・ 平成26年に発生した水質事故は、筑後川・矢部川・嘉瀬川水系合わせて5件でした。
- ・ しかし、幸いにも河川への流出に至らなかったものや、原因物質の量がごく少量であったため事故発生場所や原因物質が特定できなかったものなどもあり、全体の通報件数は26件となっています。
- ・ 水質事故はその発生が予見しにくく、また発生した場合は初期段階における迅速な対応が被害拡大防止につながることから、関係機関と河川管理者の密接な連携が不可欠です。このため、河川管理者と関係機関からなる「水質汚濁防止連絡協議会」を設置して、事故発生時に速やかな情報伝達を行い、オイルフェンス設置等の拡散防止措置を講じています。